

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1
鹿児島大学歯学総合研究科
衛生学・健康増進医学
TEL (099) 275-5289
FAX (099) 265-8434

発行責任者：地方会長 堀内正久

(題字：倉恒匡徳筆)

巻頭言

産業保健の次の100年への期待

産業医科大学 環境疫学研究室 藤野善久



時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

任期期間の最終号でのご挨拶となります。2027年に開催予定の日本産業衛生学会第100回大会に向けて、九州地方会関係者の皆様の高まる機運を強く感じております。

さて、次なる100年の産業保健には、何が求められるのでしょうか。

近年、地球環境の変化と人々の健康との関係性に注目した「プラネタリーヘルス (Planetary Health)」という概念が広がりを見せています。この考え方は、人間の健康と地球環境の健康が切り離せないものであり、持続可能な未来を築くためには、両者を統合的に捉える必要があるというものです。プラネタリーヘルスの視点を取り入れることで、次なる100年の産業保健に求められるものが何であるのかを、改めて考えていきたいと思っております。

プラネタリーヘルスには、気候変動、食料システム、水資源、環境、生物多様性、都市化、感染症、エネルギーなど、多岐にわたるテーマが含まれています。一見すると壮大なテーマで、キーワードを耳にしても実感が湧かない場合もあるかもしれません。しかし、具体的に掘り下げてみると、それらは産業保健と密接に関わっています。

例えば、気候変動は職場環境に直接的な影響を及ぼします。猛暑日が増えることで、屋外作業や高温環境下で働く人々の熱中症リスクが高まり、生産性の低下が懸念されています。また、毎年のように発生する自然災害は、もはや事業所においても想定すべき事象となっています。洪水、台風、地震などの災害が頻発する中で、従業員の安全確保や事業継続計画 (BCP) の策定がますます重要となっています。

さらに、大気汚染や化学物質への曝露も、産業保健における普遍的な課題です。特に、新規化学物質の安全性の確

認や適切な管理方法の確立は、今後も不可欠な取り組みとなっています。

また、COVID-19の流行によって急速に普及したリモートワークについても、プラネタリーヘルスの視点から再考する必要があるかもしれません。リモートワークは、通勤に伴うエネルギー消費を減らし、カーボンフットプリントの低減に寄与します。一方で、労働者個人が家庭で労働中に使用するエネルギーとのトレードオフを考慮する必要があります。

これらの課題に対し、私たち産業保健の専門家が担うべき役割は、ますます重要性を増しています。これまで培われてきた知識と技術を基盤とし、新しい時代の要請に応じた柔軟な発想と対応力が求められています。産業保健は単に従業員の健康を守るだけでなく、企業の経済活動の重要な一環であることを再認識し、持続可能な社会の実現に向けて一層貢献していく必要があります。

これまでの100年がそうであったように、これからの100年において、どのようなイノベーションが生まれるのか、大いに期待したいと思います。



新入会や新しいポジションに 就かれたり離れたたりした方の声

新入会のご挨拶

尾崎 琴乃

(ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)
博多オフィス)



この度、日本産業衛生学会に入会させていただきました、ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社で保健師をしております尾崎と申します。この紙面をお借りして、ご挨拶をさせていただきます。

私は産業医科大学を卒業し企業にて、保健師として活動しておりますが、まだまだスキルも経験も不十分なため、時折、研修や学会に参加し勉強させていただいております。

簡単な紹介にはなりますが、弊社は、半導体関連商品の研究・開発に携わっており、特に半導体のイメージセンサーは、スマートフォンやデジタルカメラ、自動車、セキュリティカメラなど、世界中のさまざまな分野で使われており、現在、世界シェアは、世界ナンバーワンです。さらに、さまざまな領域での活用が始まっているセンシング用途においても世界ナンバーワンをめざし、より魅力的な製品の開発に取り組んでいます。こういった事業の発展に少しでも貢献できるように、保健師として社員がいきいきと働ける環境づくりを意識しながら日々産業保健活動を進めています。

産業保健活動においては健康相談や職場巡視など、どの活動においても個人への介入はもちろんですが、組織への介入が重要であると日々の活動を通じて感じております。特にメンタルヘルス対策の一環であるストレスチェック説明会においては、医療職だけでなく人事など関係部署の方々にもサポートをいただきながら、マネジメントに対して職場の課題や強みについて改めて認識していただき今後の対応策について医療職として支援できることがないか一緒に考える機会を作っています。組織への介入を続けることで、組織との関係についても少しずつ構築することができ、問題が発生する前に組織全体で対処いただくことが少なからず増えてきたのではないかと考えています。また、こういった活動は保健師一人でするものではなく、医療職や上司、人事など他の部署の方々との連携があるからこそ、多方面から組織にアプローチができ解決に導くことができるということを活動の中で実感しています。

しかしながら、実際は複雑に絡み合っている問題も多く、思うように活動を進めることができないこともあり自身のスキル不足を感じる時が多々あります。そのため、今回の

入会にて、社外の専門職の皆様との交流、また学習の機会を持つことで、自身のキャリアアップにつなげ企業の価値向上に寄与していきたいと思っておりました。まだまだ未熟者ではありますが、今後皆さまからのご指導、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。

九州地方会会長の退任にあたって

堀内 正久

(鹿児島大学 衛生学・健康増進医学)

大変お世話になりました。2019年から、加藤貴彦先生の跡を継いで、地方会長をさせていただきました。地方学会の発展は、ひとえに、会員の皆様の満足度の向上と思い、情報の適切なタイミングでの提供や会員同士のより親密な交流などが図られるように努めたつもりです。会員数は、コロナ禍ということにも関わらず、170名ほど増加し、900名の大台になりました(2025年1月6日名簿から)。総数の増加だけでなく、これから考えると、福岡県のみならず、その他の県での会員数の増加や医師や保健師・看護師以外の職種の会員数の増加によって、地方会の活気がより高まるのではと思います。以下、折角の機会でもあり、簡単に、この任期中の出来事を記載しておきます。

1. 地方会誌の工夫：地方会理事の方に編集委員になっていただき、地方会理事会の考え方を発信する場としました。巻頭言では、新たに地方会理事になっていただいた方にご寄稿を頂きました。また、若い方の声ということで、新しい職や場所に移られた方の記事を多く掲載することができました。
2. 地方会学会の工夫：主催者の多様化ということで、2024年度には歯科保健部会(福岡歯科大学谷口先生)に初めての開催をしていただきました。また、会員の身近な交流を目的にポスター発表も用意いただきました。方法はともかく、多様化や身近な交流は地方会にとって、大事なコンセプトのように思いました。



3. 代議員等の選挙の投票率の向上：代議員などの選挙の投票率の低さは以前から指摘されていましたが、選挙管理委員会の池上委員長始め委員の皆さまの種々の工夫によって、代議員選挙に関しては43%近くまで投票率が向上しました。この場を借りて御礼を申し上げます。
4. 各県の活動の促進：各県の産業保健活動の促進のために助成金制度を設けました。2024年度からの実施でしたので、現在実施1件、予定1件という状況ではありますが、これを基盤に、より各県の産業保健活動が高まりますことを願っているところです。
5. 多職種の方の産業保健への参加：多職種活動の1つとして、保険薬局薬剤師の皆さまに産業保健に参加していただくよう地方会学会で自由集会を数度開催することができました。

コロナ禍もあり、なかなか運営が難しかった期間ではありましたが、オンラインの利用などもあり、通常の活動については滞りなく進めることができたように思います。会員の皆様のご協力をここに感謝を申し上げる次第です。3期6年間の任期を終えて、少し安堵をしているところではあります。大変貴重な経験をさせていただきました。これからはこの経験を生かして、微力ながらも、更なる地方会学会の発展のために寄与できればと考えております。まずは、この場を借りて、感謝の気持ちを記させていただきます。

末筆になりますが、2027年5月には、堀江正知先生を企画運営委員長に、江口尚先生を地方会長として、第100回の日本産業衛生学会が九州（小倉）で開催されることになります。お二人の先生を中心に準備が進むものと思っておりますが、九州地方会会員皆様で、より充実した会になるように協力体制が構築されますことを願っております。



部 会 報 告

産 業 医 部 会

小田原 努

((公社)鹿児島県労働基準協会 ヘルスサポートセンター鹿児島)

令和6年度の九州産業医部会の研修会は、令和7年1月25日に博多駅近くにあるTKP博多駅筑紫口ビジネスセンターにて、むらかみ眼科医院の村上美紀先生を講師にお招きし、「産業保健に役立つ目の話」というテーマで研修会を開催しました。

眼科の臨床と、産業医の実務に詳しい村上先生のお話は、講演タイトル通り、今からでも役立つような実践的なお話でした。まず、産業保健の現場で良く遭遇する、目に異物が飛び込んだ時の対処方法を具体的にお話いただきました。基本的にすぐ30分以上十分に流水で洗眼することが大切ですが、一番怖いアルカリ溶液については、病院での対応もPHを測定しながらの洗浄の話は参考になりました。大きな工場では、よく洗眼器などを装備されているところもありますが、年に1回も使用しないところでは、洗眼器を清潔に維持する方が大変で、事故のあったときは、買い置きの生理食塩水で洗眼すれば良いとの事です。

また、色弱の方の対応も現場では、配慮の行き届かない問題のひとつです。つい色の識別だけで、いろいろなサインを考えがちですが、例えば赤のサインは1つの電球、青のサインは2つの電球と、色以外の情報も追加することで、解決できることは盲点でした。

また、従業員も高齢化してきており、いろいろな目の病気を抱えていらっしゃると思いますが、例えば、緑内障は意外と多く、眼底検査の有用性も力説しておられました。緑内障の視野異常もかなり進行していかないと、自覚しにくいですが、明らかな視野異常があっても、自動車の運転の禁止基準がないために、本人も運転を控えることに納得されないケースも多いとのこと。特に交通信号や標識がみえないケースも多いので、産業現場で視野異常が分かったら、眼科の主治医と情報を共有しながら、運転技能検査等も検討した方が良さそうと思いました。



今回の研修は、皆様の関心も高かったようで、会場は30名程の集まりでしたが、広島から参加された産業医の先生もおられました。また Web での参加も100名程と、例年になく多くの方に参加していただきました。やはり実践に役立つテーマは関心が高く、これからも研修会のテーマとして、検討していきたいと思っております。

産業保健看護部会

大渡 聡子
(株式会社メディヴァ)

健康経営は組織の活性化、企業業績等の向上にもつながり、その意義は益々高まっています。また、女性の健康課題に対する企業の取り組みも関心の高いものとなっています。これに伴いまして九州地方会産業保健看護部会では、「健康経営推進をチャンスに！産業保健看護職の強みを知る」をテーマに産業保健看護研究会を2024年9月7日(土)リファレンス大博多ビル貸会議室にて2部構成で開催しました。

講演1では「働く女性の健康課題についての正しい知識と企業内での対策」と題して一般財団法人京都工場保健会女性医学研究センター長谷川暢子先生、講演2は「産業保健看護職による健康経営推進のコツ～経営層を動かし現場を牽引する発想力・発信力～」と題してアサヒプロマネジメント株式会社サステナ推進部健康支援センター住徳松子先生にご講義いただきました。

講演1では、女性ホルモンや生理にまつわる不調、妊活・不妊、乳がん・子宮頸がんなどの最新の知識と企業で女性従業員への対策として落とし込む具体例をご紹介いただきました。また企業内の対策推進の難しさを整理し、対策の優先順位など取り組みの考え方などをご講義いただきました。講演2では、企業内で健康経営への看護職の関わり、健康経営度調査選定に向けた課題解決を実際の調査票を示しながら、事例をもとにご紹介いただきました。産業保健看護職の健康経営の関与の度合いが企業におけるキャリアやポジションにより役割が異なることも整理し、ご講義いただきました。



残りの時間で両テーマについて困りごとや関心など参加者同士で意見交換を行いました。活気にあふれ和気あいあいとお話されている姿がとても印象的でした。参加者は33名で産業保健看護職としての経験は10年以上のベテラン層が60%、企業所属者が61%を占め、女性の健康課題、健康経営が企業内の産業保健活動でも関心が高いことがうかがえました。

事後のアンケートでは、講演1、講演2ともに「大変満足」、「満足」との回答が合わせて100%、また「理解が深まったか」の質問にも100%が「理解が深まった（“やや深まった”を含む）」と回答されました。自由記述では、「女性の健康管理を難しく感じていましたが、少しハードルが下がりました」「大変貴重で学びの多い会でした」など有意義であったというコメントを多くいただきました。

今後の活動としましては、2024年度日本産業衛生学会九州地方会産業保健看護専門家制度継続教育研修会を2025年1月25日(土)に、一般社団法人認知行動療法研修開発センター理事長大野裕先生を講師にお招きして同会議室にて開催します。テーマは『認知行動療法の第一人者 大野裕先生から「本質的な認知行動療法」を直接指導』とし、面接動画の視聴後にグループワークを企画しています。次号で開催のご報告をいたします。

今後も専門職の皆様が効果的な産業保健活動を実践できるよう研修企画を行って参ります。皆様のご意見やご参加をお待ちしております。

産業歯科保健部会

谷口 奈央
(福岡歯科大学 口腔保健学講座 口腔健康科学分野 教授)



第73回日本口腔衛生学会（5月開催）では、昨年度に引き続き日本産業衛生学会産業歯科保健部会とのコラボレーション企画として、産業歯科保健に関するイブニングシンポジウムが行われました。前回のテーマ「今がチャンス 産業保健での歯科保健の新たな展開～歯科が期待される役割～」では、

労働安全衛生規則の改正に伴う歯科医師による特殊健康診断の報告義務や、歯科関連の文言が追記された THP (Total Health Promotion) 指針の改正など、2020年以降急速に高まる産業保健における歯科への期待について、基礎から学ぶ機会が提供されました。今回のテーマ「産業歯科保健の動向～今後期待される歯科健診・保健指導とは～」では、2024年4月から始まった新たな化学物質管理における歯科の役割や、健康経営の視点からの歯科への関心の高まりが紹介されました。会場では、他職種との連携や歯科に期待される役割について、多くの質問や意見交換が行わ

れました。

第34回日本産業衛生学会全国協議会（10月開催）の期間中に行われた産業歯科保健部会の幹事会には、私は現地参加が叶わず、Web参加をさせていただき、地方会報告として、九州地方会学会の準備状況などを説明しました。歯科における産業歯科保健への関心は急速に高まっています。庶務報告では、部会員数が2021年度235名から2024年9月23日現在で317名に増加したことが報告されました。さらに部会の活性化を目指し、本年度より全国協議会のポスター発表に対する産業歯科保健部会の賞が新設され、今回の大会から実施されました。また、HPの充実化（写真の掲載拡充等）についても話し合われました。全国協議会のシンポジウムでは、「職域において閉塞性睡眠時無呼吸（OSA）にどう対応すれば良いか？」をテーマに、医科、歯科、保健師の立場から講演が行われました。睡眠時無呼吸のマウスピース作製には歯科の関与が不可欠であり、また、睡眠時無呼吸が口腔乾燥を招き、それが歯科口腔領域の疾患や不調の原因となることなど、歯科と密接に関連する重要な領域の一つです。さらに、交代勤務消防士に歯ぎしりが多いことや（10月23日福岡市開催「企業利益向上のための睡眠習慣改善」セミナー）ラグビー選手にOSAが多い（Sports Dentistry, 2024）といった報告は、2025大阪・関西万博「いのち輝く未来社会のデザイン」における歯科の役割の一つにもなるものと再認識しました。

最後に、九州地方会学会の開催にあたり、講演をしてくださった先生方や参加してくださった先生方と多く交流できたことが、この半期における部会活動の拡充に向けた最も重要な出来事でした。学会終了後の懇親会での集合写真を添付いたします。

産業衛生技術部会

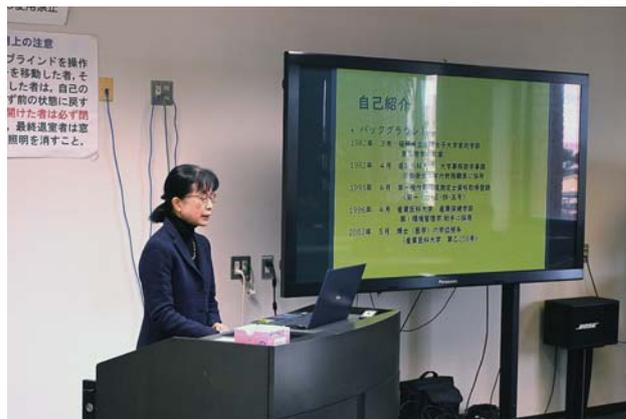
宮内博幸

（産業医科大学 産業保健学部 作業環境計測制御学）

令和6年度九州産業衛生技術部会研修会が、令和6年11月30日に産業医科大学において約70名の参加者のもと開催されました。研修会タイトルは「自主的な活動の推進へーこれからの安全衛生活動を考えるー」というテーマにて現地およびオンラインで開かれました。

基調講演は「浮遊微生物研究は、労働安全衛生に貢献できたか」と題し、石松維世先生（産業医科大学）にご講演を賜りました。

石松先生からは、繊維状物質の生体影響に関するご研究から微生物研究に到達された経緯や、浮遊微生物の測定方法や検出方法に関するご研究をご紹介いただきました。特に、環境工学分野から室内環境分野へと研究を進められる中で、労働衛生分野における作業環境管理では、微生物がほとんど問題視されていないことへの気付きがあり、そこから職場における微生物の測定・検出に関する手法を確立



されることにつながる、長年のご研究の成果をご講演いただきました。また、COVID-19のようなパンデミックへの対応には、産業医学と環境工学の連携が必要であることもご提言いただき、労働衛生分野におけるこれからの微生物対策に関して、とても示唆に富む内容でした。

続いて、安全衛生専門職からの提言として「安全衛生専門職のこれから」と題し、現場で活躍されている4名の演者より講演が行われました。

角田由紀氏（三井化学株式会社 大牟田工場健康管理室）からは、化学物質の自律的管理には細かい規定があり、衛生管理者の業務が急増しているためデスクワークをDX化する必要があることや、三現主義（現場・現物・現実）が重要との提言をいただきました。

野末知里氏（日鉄ステンレス株式会社 製造本部安全環境防災推進部）からは、熱中症対策、化学物質管理のためのチェックリストやSDS管理システムの活用、現場の作業者との日頃からのコミュニケーションの重要性などを紹介していただきました。

宿利謙太氏（福岡労働局 北九州西労働基準監督署）からは、行政の立場から、化学物質の自律的管理や化学物質管理をめぐる現状、安全衛生専門職として心がけるべきことや、労働基準監督官の安全衛生専門職に対する支援などについて提言していただきました。

荒尾弘樹氏（日揮触媒化成株式会社 環境安全管理部）からは、指さし呼称の定着を目指した取り組みや多職種連携に関する取り組み、中小企業における効果的な安全衛生教育に関する研究成果などを報告していただきました。

本研修会では、石松先生の浮遊微生物研究に関する長年のご研究の成果や、現場で活躍されている講師の皆様にお仕事やこれまでのご経験などに関連して、多職種連携や現場とのコミュニケーションをはじめ、知識のみではなく、自主的活動を推進していく上で大事にしなければならないことを実践例を交えてご講演いただき、とても有益な研修会となりました。

研修会・学会の報告と予告

2024年度日本産業衛生学会
九州地方会学会開催報告

谷口 奈央

(福岡歯科大学 口腔保健学講座 口腔健康科学分野 教授)

2024年度の地方会学会は、11月16日(土)に福岡歯科大学50周年記念講堂にて開催いたしました。今大会は現地参加のみとし、参加者は123名でした。

歯科保健部会がダイバーシティの流れで主催し、多職種連携を意識しながら準備を進めてまいりました。第一の取り組みとして、多職種間の活発な意見交換や交流を促進するために、ポスター発表と活動紹介を取り入れました。一般口演8演題、ポスター発表7演題、活動紹介5演題の計20演題が集まりました。多くの演題登録をいただき、誠にありがとうございました。

第二の取り組みとして、歯科に関する理解をさらに深めていただくため、皆さまから寄せられたご質問への回答をポスター会場に掲示しました。内容は、歯並び・歯科矯正と生活習慣病や労働関連指標との関連性、睡眠時無呼吸症候群の治療、職場に歯科健診がない場合の取り組み例、労働者向けの口腔保健に関する動画紹介など、計11の質問が寄せられました。

基調講演では健康経営をテーマに、森 晃爾先生(産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健経営学 教授)より「成果が上がる健康経営: 健康風土づくりとプログラムの多様性」をご講演いただき、私からは「健康経営と多職種連携: 歯科からのアプローチ」をお話いたしました。

教育講演では、堀内 正久先生(鹿児島大学医歯学総合研究科 衛生学・健康増進医学分野 教授)より「地域都市における働く世代の健康支援を誰が担うのか～人が幸せになる社会の仕組みづくりを目指して～」をご講演いただきました。

特別講演は、国立感染症研究所 感染症疫学センター長の鈴木 基先生をお招きし、「感染症対策の最前線から見る産業保健スタッフのキャリアデザイン」をご講演いただきました。

また、今大会では優秀プレゼンテーション賞を設けました。最優秀賞1演題、優秀賞3演題が選考委員の採点により選ばれ、総会で受賞者は堀内地方会長から表彰されました。ますます活発な学会となることを期待しております。

最優秀賞

松垣竜太郎先生

(産業医科大学 産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学)

「高齢労働者におけるフレイルと慢性腰痛との関係:

前向きコホート研究」

優秀賞

永野千景先生

(産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学)

「暑熱環境下にて身体作業を行った際のヘルメット型

発汗量測定システムによる暑熱リスクの評価」

宮崎さおり先生

(富士通株式会社 健康推進本部)

「チームで拓く健康支援

～産業保健活動の標準化と効率化による効果～」

川原 成人先生

(吉重薬品グループ もみじ薬局)

「働く世代を意識した薬局での健診支援の取り組み」

自由集会は、鹿児島・九州産業薬剤師チーム(K-OPT)によるセッションが現地で開催されました。ランチョンセミナーでは、アドテック株式会社様より歯周病リスク検査キットについての紹介がありました。懇親会は博多駅前の「ごちそうダイニング ななつの花」で行い、多くの方々にご参加いただきました。

今大会にご参加いただいた皆様、そして様々な形でご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



2025年度九州地方会学会のご案内 (第 2 報)

中 村 幸 志

(琉球大学大学院医学研究科 公衆衛生学・疫学講座)

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。2025年度の九州地方会学会は、琉球大学大学院医学研究科公衆衛生学・疫学講座が主宰して開催します。過日に福岡にて開催された2024年度の九州地方会学会の総会でご案内したとおり、以下のような形で開催する準備を進めています。

●日時 2025年11月7日(金) 午後、8日(土) 午前

●場所 沖縄産業振興センター

(沖縄県那覇市字小禄1831番地1)

沖縄都市モノレール(ゆいレール)

小禄駅から徒歩にて約15分

●プログラム構成の概要(進行順ではありません)

・学会長講演

中村幸志(琉球大学公衆衛生学・疫学講座 教授)

・教育公演

江口 尚(産業医科大学産業精神保健学研究室 教授、次期地方会長)

・特別講演

高江洲義和(琉球大学精神病態医学講座 教授)

・一般演題(口演)

・一般演題(ポスター)兼交流ティータイム

・総会

・自由集会

(懇親会は行いません。各自で沖縄でのご滞在をお楽しみください。)

準備が整い次第、学会ホームページを立ち上げて、詳細なプログラム構成、参加登録および一般演題募集などをご案内する予定です。皆様と沖縄でお会いできることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



選挙関連報告

2025年度から2026年度任期の 役員選挙結果

地方会選挙管理委員会委員長 池上 和 範

(桜十字福岡病院)

2024年9月20日から12月25日にかけて、九州地方会長・九州地方会理事・代議員・本部理事選挙が実施されました。選挙結果は、以下の通りです。なお、各選挙の投票率は以下になりました：地方会長：32.0%、九州地方会理事：37.5%、代議員選挙：42.9%、本部理事：93.0%(代議員による選挙)。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

九州地方会長

江口 尚

本部理事(3名)

大神 明、中谷 淳子、彌富美奈子

九州地方会理事(12名)

(福岡)池上 和範、大神 明、住徳 松子、
中谷 淳子、堀江 正知

(佐賀)彌富美奈子 (長崎)山下美和子

(熊本)大森 久光 (大分)垣内 紀亮

(宮崎)田邊 綾子 (鹿児島)堀内 正久

(沖縄)中村 幸志

代議員(71名)

福岡 [53名]: 浅海 洋、安藤 肇、五十嵐 侑、

池上 和範、石丸 知宏、市川富美子、一瀬 豊日、

井上 彰臣、上野 晋、江口 尚、榎田奈保子、

榎原 毅、大神 明、大久保浩司、太田 雅規、

岡崎 龍史、小田上公法、梶木 繁之、川波 祥子、

喜多村紘子、姜 英、財津 将嘉、柴田 喜幸、

白石 明子、住徳 松子、高山 祥子、立石清一郎、

谷 直道、谷口 奈央、辻 真弓、友永 泰介、

中尾 由美、永田 智久、永田 昌子、中谷 淳子、

永野 千景、八谷百合子、原田有理沙、東 秀憲、

日野亜弥子、日野 義之、樋上 光雄、藤野 善久、

堀江 正知、真船 浩介、丸山 崇、宮内 博幸、

宮崎 洋介、森 晃爾、森本 泰夫、大和 浩、

山本 良子、渡邊 聖二

佐賀 [2名]: 彌富美奈子、後藤 英之

長崎 [4名]: 青柳 潔、黒崎 靖嘉、安武 正矢、

山下美和子

熊本 [4名]: 尾池千賀子、大森 久光、加藤 貴彦、

成田 彩

大分 [1名]: 垣内 紀亮

宮崎 [1名]: 田邊 綾子

鹿児島 [5名]: 江並 朋子、小田原 努、楠本 朗、

堀内 正久、山本 彩加

沖縄 [1名]: 千葉 千尋

理事会報告

編 集 後 記

2024年度
第2回九州地方会理事会

- 日時：2025年2月1日(土) 9:00-10:00
場所：Web会議
- 議題：1) 2024年度第1回理事会議事録要旨について
2) 2024年度事業・決算報告・会員数について
3) 2025年度事業計画・予算案・体制について
4) 学会開催報奨について
 学会開催後、剰余金の返金があり、その用途を検討したい旨、説明があった。開催のためのモチベーションを下げない何らかの対応が必要とのことであった。全体の方向性は了承され、引き続き、メール会議にて詳細を詰めることとなった。
5) 名誉会員、学会賞・奨励賞受賞者(2025年報告と2026年の依頼)について
6) その他
- 報告事項：1) 学会本部関係・情報提供
2) 選挙結果報告
3) 2024年度地方会学会 開催後報告
4) 2025年度地方会学会 予告
5) 第100回日本産業衛生学会学術総会
6) その他(産衛九州2月号準備状況など)

産衛九州第57号をお読みいただき、ありがとうございます。今号は、藤野善久先生による「プラネタリーヘルスの紹介と産業保健の未来への展望」をテーマにした巻頭言から始まりました。新入会員としての尾崎琴乃さんの挨拶、堀内正久先生による九州地方会長としての退任の挨拶、さらに産業医部会、産業保健看護部会、産業歯科保健部会、産業衛生技術部会からの詳細な活動報告といった、充実したコンテンツが含まれています。また、谷口奈央先生による昨年11月に開催された2024年度日本産業衛生学会九州地方会学会の報告や、中村幸志先生からの2025年11月7日に沖縄県で開催される次年度の学会についてのご案内がありました。

選挙関連では、池上和範先生の尽力により投票率が大幅に向上しました。これは地方会の活動に対する会員の関心と参加意識が向上した結果だと考えています。

2019年から3期6年間、九州地方会長を務められた堀内正久先生が今期で退任されます。堀内先生の在任期間中に会員数が170名も増加した事実は、堀内先生の献身的な尽力と産業衛生学会への社会的期待が高まっていることの証です。改めて、堀内先生のご尽力に深く敬意を表します。私が地方会長の役割を引き継ぐにあたり、先達が築き上げた基盤の上で、第100回大会およびその先の今後100年の挑戦に向けて、九州地方会のさらなる発展を目指して参ります。

会員の皆様のご支援とご協力を引き続き賜りますよう、心からお願い申し上げます。

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 2025年 2 月 28 日

編集正責任者：堀内 正久 (鹿児島大学)

編集副責任者：江口 尚 (産業医科大学)

編集委員：青柳 潔 (長崎大学)

彌富美奈子 (株式会社SUMCO)

大神 明 (産業医科大学)

加藤 貴彦 (熊本大学)

小田原 努 (ヘルスサポートセンター鹿児島)

黒田 嘉紀 (宮崎大学)

斉藤 功 (大分大学)

住徳 松子 (アサヒビール株式会社)

中村 幸志 (琉球大学)

藤野 善久 (産業医科大学)

森 晃爾 (産業医科大学)

(編集事務局連絡先)

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘 8 - 35 - 1

鹿児島大学医歯学総合研究科

衛生学・健康増進医学

TEL (099) 275-5289 FAX (099) 265-8434

E-mail: masakun@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp